

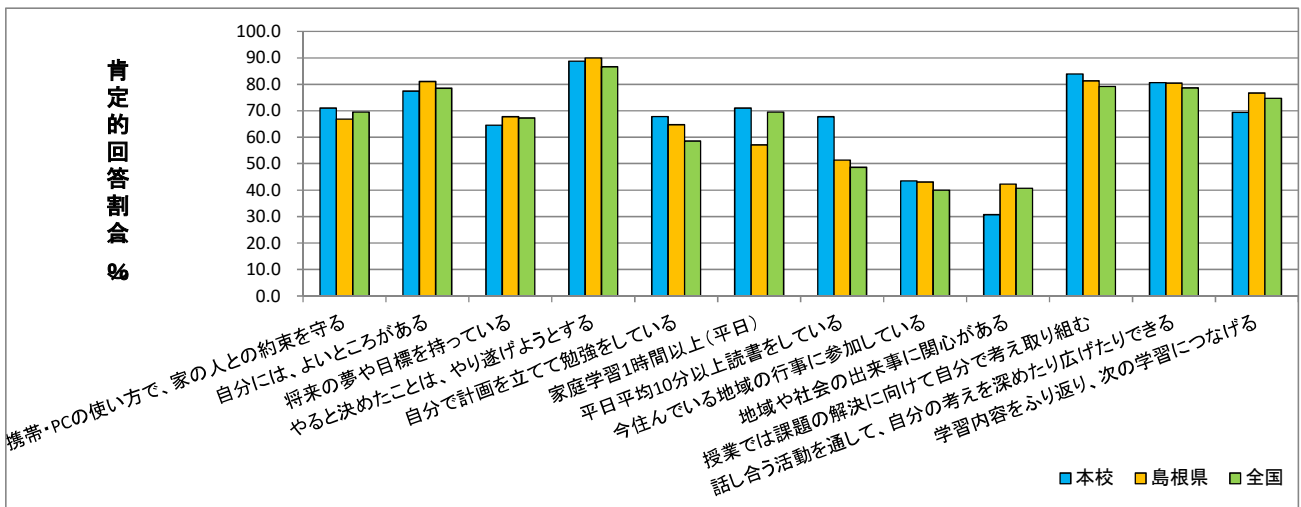
(1)学力調査結果から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対策(・)
国語	○「思考・判断・表現」のうちの「C読むこと」については、県・全国平均を上回っている。 ●「知識・技能」のうち「(2)情報の扱い方」と「思考・判断・表現」の「B書くこと」について得点が低く、特に資料から必要な情報を引用して意見文を作成することが課題である。	・学習教材に合わせて、論理的な短作文を書く活動を学習のまとめや発展学習に位置付ける。 ・入試対策に合わせ、資料の読み取りから課題作文を書く活動を行う。
数学	○図形の領域は全国平均に近い。 ●データの活用の領域を苦手としている生徒が多く、その領域の知識・技能が弱い。	・ヒストグラム、箱ひげ図の問題に取り組む時間を2時間設定する。 ・口頭や記述で、論理的に説明する機会や課題を増やす。 ・問題を読み解き、課題を解決しようとする意欲をもてるような課題を設定する。
理科	○「生命」を柱とする領域および「知識・技能」を評価する問題については、県平均・全国平均を上回っている。 ●「思考・判断・表現」を評価する問題について得点が低く、特に考察の妥当性を判断したり、予想や仮説と異なる結果が出たときに考えたりすることを不得意としている。	・科学的な課題探求に慣れていないことが考えられるので、レポート作成を実験や観察に取り入れ、考察の場面では班での話し合いを取り入れる。

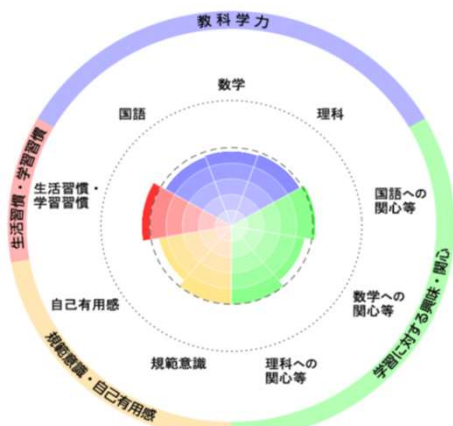
(2)生徒質問紙調査から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対策(・)
質問紙	○生活リズムが整っており、計画的に学習を進めることができる生徒が多い。 ●困りごとを先生などに相談できない生徒が多い。 ●学校生活をよりよくするための話し合い活動をしていない。 ●数学に対する苦手意識に根深いものがある。	・個人面談や進路相談等を通して、生徒との信頼関係を築く。 ・学校行事などで、話し合い活動を多く取り入れ、意見を互いに出し合いながら解決していく経験を積ませる。 ・少人数学習を通してわかりやすく質問しやすい雰囲気醸成し、数学への抵抗感を取り除く。

(3)生徒質問紙調査結果より(学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています。)



(4)学力・学習状況調査結果チャート(破線は全国平均)



(5)その他、今後特に力を入れて取り組むこと

・「すこやか健康生活チャレンジ週間」や定期テスト前の計画表を通して、生活習慣やメディアと関わる時間についての意識を今後も継続して高めていく。
・図書館や電子機器を活用した授業について、研究担当(司書教諭)と情報教育担当が職員研修を行う。図書館活用については、授業を行う全教員が系統表から学びの全体像を捉え、自身の授業への活用を考えて実践する。電子機器を活用した授業については、情報教育担当がタブレットや電子黒板等のICT機器を活用した授業を公開する。その他、授業研究などを通して、教員の授業力向上を目指す。

【受検者数】

63 名

※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示。